

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報14

台風後の技術対策について

台風 9、10 号による水稻の倒伏等が一部で確認されています。下記の事項を参考に、台風後の技術対策の実施をお願いします。また、水稻ではトビイロウンカによる「坪枯れ」が多発していますので、防除の徹底をお願いします。大豆では、ハスモンヨトウの食害が増加していますので、発生状況に注意してください。

1 水稻

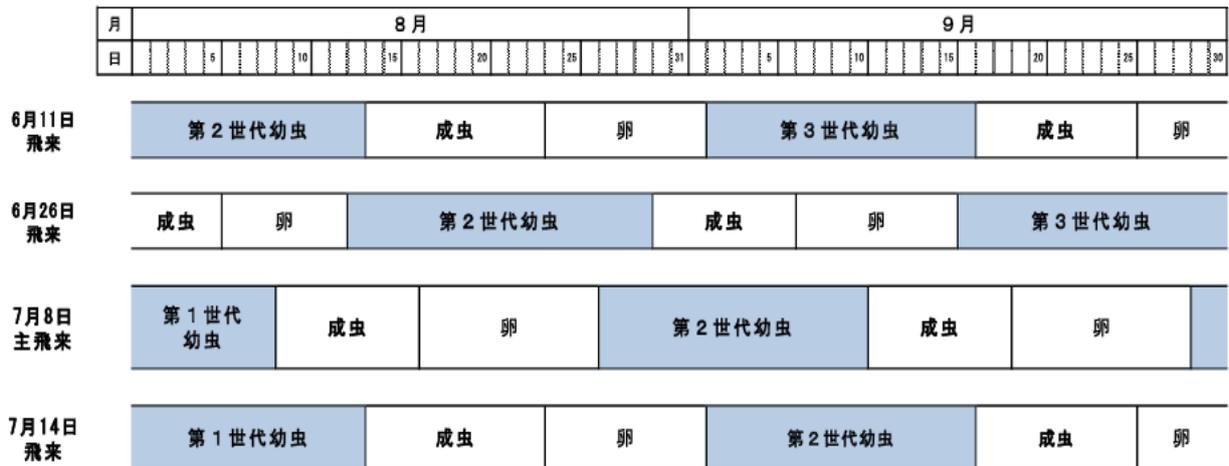
- (1) トビイロウンカの発生が多い場合
 - ・台風による稲体の「なびき」がみられる場合は、株元まで薬剤が到達するように丁寧な薬剤散布を行う。
 - ・倒伏した場合は、「坪枯れ」が進行するため、収穫可能になり次第、早めにより収穫する。
- (2) 「夢つくし」で倒伏した場合は、成熟期が早く穂発芽の恐れがあるため、早急に落水し収穫可能となり次第早めに収穫する。
- (3) 「元気つくし」で倒伏が激しい場合は、落水し、土壌が乾燥しない程度の水管理とする。
- (5) 「ヒノヒカリ」、「実りつくし」等の中晩生品種は、数日間は間断かん水を避け、ほ場を湛水状態とする。但し、倒伏が激しい場合は株がムレるため、土壌が乾燥しない程度の水管理とする。
- (6) 潮水がほ場に流入した場合は、水を入れ替え、数日間はかけ流しを行う。
- (7) 倒伏したほ場の収穫作業に当たっての注意事項
 - ①倒伏が激しい場合は、成熟が進み難く、重なり合った株にムレ等が発生するため、やや早めに収穫を開始する。
 - ②自脱型コンバインで収穫する場合、倒伏用補助デバイダがある場合は装着して作業を行う。補助作業用デバイダがない場合は、倒伏した方向に追い刈りする。また、収穫作業に多くの時間を要するため、早めに収穫を開始する。
 - ③倒伏したほ場の籾は、水分も高く品質も低下しているため一般のほ場と区別して乾燥調製を行う。特に高水分籾を乾燥する場合は、初期乾燥は送風温度を低めにする。
- (8) 共同乾燥調製施設運用上の注意事項
 - ①品種により倒伏状況が異なるため、品種別の倒伏状況を把握する。
 - ②倒伏程度が激しい品種は、荷受け期間が長くかかるため早めに荷受けを開始する。
 - ③倒伏が激しいほ場の籾は別荷受けとし、一般のほ場と区別して乾燥調製する。

2 大豆

- (1) 雨による停滞水がある場合は、出来るだけ早くほ場外に排出するため作溝の整備を行う。排水後は、乾燥防止のため本暗渠の栓を閉める。
- (2) 台風の風雨によりハスモンヨトウの発生状況が変化しているため、ほ場の状況を確認して防除を実施する。

参考資料

1. トビイロウンカの発生予想パターン図



(注) (1) 発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
 (2) 気温はアメダス太宰府を使用(9月2日まで実測値、以降は平年値)。

飛来に基づくトビイロウンカの発生予想パターン図

(令和2年9月3日作成)

2 農林業総合試験場における水稻の出穂期と予想成熟期

調査場所	品種	移植日	出穂期	予想成熟期
農産部 (筑紫野市)	夢つくし	6月10日	8月12日	9月14日
	元気つくし	6月19日	8月21日	9月27日
	ヒノヒカリ	6月19日	8月27日	10月7日
筑後分場 (大木町)	元気つくし	6月19日	8月19日	9月26日
	ヒノヒカリ	6月19日	8月25日	10月5日
	実りつくし	6月19日	8月31日	10月15日

- ・ 収穫時期は、黄褐色籾比率や水分を確認して決定する。
- ・ 本年は、高温のため刈り遅れに注意する。

3 農林業総合試験場における大豆(フクユタカ)の開花期

播種期	開花期
7月16日	8月25日
7月30日	9月4日
8月6日	9月7日

- ・ ハスモンヨトウは、白変葉とほ場の発生状況を判断し、適期防除を行う。
- ・ カメムシ類と紫斑病は、開花後25~30日頃に防除を実施する。